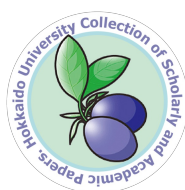




|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | アルタイ型言語における日本語複合動詞の対応表現について                                                       |
| Author(s)        | 風間, 伸次郎                                                                           |
| Citation         | 北方言語研究, 15, 97-123                                                                |
| Issue Date       | 2025-03-20                                                                        |
| DOI              | <a href="https://doi.org/10.14943/112973">https://doi.org/10.14943/112973</a>     |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/94617">https://hdl.handle.net/2115/94617</a> |
| Type             | departmental bulletin paper                                                       |
| File Information | 06_Kazama.pdf                                                                     |



## アルタイ型言語における日本語複合動詞の対応表現について

風 間 伸 次 郎  
(東京外国語大学)

キーワード：複合動詞、アルタイ型言語、アルタイ諸言語、朝鮮語、言語類型論

### 0. はじめに

日本語の複合動詞<sup>1</sup>にはその後項動詞がアスペクトなどの文法的な機能を示し、高い生産性を示すものがある。例えば「(～し) 始める」、「(～し) 切る」などである。このような複合動詞は「統語的複合動詞」と呼ばれている。本稿ではこのような複合動詞の意味がアルタイ諸言語を中心とする他のアルタイ型言語(風間 (2022) を参照)でどのように表現されているかを調査・分析することを目的とする。研究方法是母語話者からの聞き取りによる。対象言語は朝鮮語、ハルハ・モンゴル語(モンゴル諸語、以下では単に「モンゴル語」とする)、ウズベク語(チュルク諸語)である。なお現在ロシアでの現地調査が難しく、ツングース諸語の言語を扱うことはできなかった。

### 1. 先行研究

#### 1.1. 日本語の複合動詞の分類について

影山 (1993) は次の 27 語を統語的複合動詞の後項としてあげている。

始動：～かける、～だす、～始める      継続：～まくる、～続ける  
完了：～終わる、～終わる、～尽くす、～きる、～通す、～抜く  
未遂：～損なう、～損じる、～そびれる、～かねる、～遅れる、～忘れる、～残す、～誤る、  
～あぐねる  
過剰行為：～過ぎる      再試行：～直す      習慣：～つける、～慣れる、～飽きる  
相互行為：～合う      可能：～得る

姫野 (2018: 21) では、さらに次の 3 語を加え、計 30 語と考えてよいのではないか、としている。      始動：～かかる      /      未遂：～損ねる      /      完了：～果てる

姫野 (2018: 21) は次の 2 つのテストにより上記の 3 語を統語的複合動詞と認定している。

#### ① 代用形『そう』との置換可

彼もそうしかかった／彼もそうし損ねた／彼もそうなり果てた

#### ② サ変動詞の使用可

落下しかかった／獲得し損ねた／退屈し果てた

<sup>1</sup> 風間 (2022: 343-379) では広く補助動詞を扱ったが、複合動詞を扱わなかった。しかも補助動詞を扱ったといっても、その補助動詞が本動詞として単独に使われた場合の意味を基準に諸言語での分布を調べたにすぎず、各言語における補助動詞の機能そのものにまでは踏み込めなかった。したがって本稿は(なお不十分ではあるが)風間 (2022: 343-379)で行った研究を補完するものである。

## 1.2. 朝鮮語の複合動詞、ならびに日本語と朝鮮語の対照研究

一ノ瀬他 (2015) では日本語と朝鮮語の複合動詞の対照ならびにその研究状況について簡潔にまとめている。これをまず以下に要約して示す。

影山 (1993) 以来、日本語における複合動詞 (前項動詞 (VI)+後項動詞 (V2)) は、「語彙的複合動詞」と「統語的複合動詞」に分類される。影山 (1993) は複数の統語テストを行うことで語彙的複合動詞と統語的複合動詞を区別している。例えば V1 を代用形「そうする」に置換する代用形置換テストがある。／a. \*太郎が扉を押し開けた。そして、花子もそうし開けた。／b. 太郎が扉を押し続けた。そして、花子もそうし続けた。

朝鮮語<sup>2</sup>には、日本語と似た特性を持つ語彙的複合動詞が存在する (塚本 (2012)、和田 (2011) 等)。

### a. olu-naylita

go.up-come.down 「上り下りする (lit. 上り下りる)」

### b. twi-nolta

run-hang.out 「飛び回って遊ぶ (lit. 走り遊ぶ)」

一方、朝鮮語には日本語と同じような統語的複合動詞がほとんどないことが知られている (塚本 (2012))。塚本 (2012) が示すように、日本語で統語的複合動詞によって表される事象は朝鮮語では異なる方法で表される。例えば、日本語で統語的複合動詞として表される事象の VI を朝鮮語では名詞化することによって表現する。

### a. 太郎が弁当を食べ忘れた。

|            |              |                  |                   |
|------------|--------------|------------------|-------------------|
| b. Taro-ka | tosilak-ul   | mek-nun-kes-ul   | ic-ess-ta         |
| T-Nom      | lunchbox-Acc | eat-Rel-NMNZ-Acc | forget-Past-Decl. |

直訳：太郎が弁当を食べることを忘れた

「終わる／終える」や「続ける／続く」の場合には「全て食べた」や「続けて食べた」のような表現を用いる。

### a. 太郎が弁当を食べ終えた。

|            |              |     |                |
|------------|--------------|-----|----------------|
| b. Taro-ka | tosilak-ul   | ta  | mek-ess-ta     |
| T-Nom      | lunchbox-Acc | all | eat-Past-Decl. |

直訳：太郎が弁当を全て食べた。

### a. 太郎が弁当を食べ続けた。

|            |              |              |                |
|------------|--------------|--------------|----------------|
| b. Taro-ka | tosilak-ul   | kyeysok      | mek-ess-ta     |
| T-Nom      | lunchbox-Acc | successively | eat-Past-Decl. |

直訳：太郎が弁当を続けて食べた。

以上、一ノ瀬他 (2015: 454-459) より要約、朝鮮語の表記とグロスは原典のまま

<sup>2</sup> 一ノ瀬他 (2015) では「韓国語」であったが、本稿では「朝鮮語」に統一した。

塚本 (1995: 79) では菅原睦氏、谷博之氏、岸田文隆氏からの御教示によるとして「トルコ語、モンゴル語、満洲語それぞれについてアスペクトを表す際にどういう表現が用いられるかについては、日本語と朝鮮語の中間で、複合動詞が活用されることもあるし、そうでないこともあるようである」としている。

塚本 (1997: 208) では「日本語と朝鮮語を比べれば、前者の方がはるかに頻繁に統語的な語形成を行う。また、抱合言語、輯合言語・多総合的言語<sup>3</sup>と呼ばれる言語は膠着言語より膠着性がさらに発展したものであり、こういった言語における統語的な語形成は非常に活発である。膠着言語の中でも、統語的な語形成について言えば、日本語が最も抱合言語、輯合言語・多総合的言語に近い存在である。それに対して朝鮮語がもっとも遠いところに存在する。また、筆者の予備的な調査によると、今のところトルコ語やモンゴル語は日本語と朝鮮語の間に位置するのではないかと考えられる」としている。

### 1.3. モンゴル語とトルコ語の複合動詞に関する先行研究

斯欽格日樂 (2020) は内モンゴルのモンゴル語諸方言における方向性を持つ補助動詞を扱っているが、もっぱらその機能の分析を主眼としており、本稿とは観点が異なる。チュルク諸語に関しては、日本語との対照も踏まえたトルコ語についての研究である栗林 (2014) があるが、格付与の情報などの統語論的分析および特質構造による意味論的な分析による研究であって、やはり本稿とは観点が異なっている。なおチュルク諸語の複雑動詞について詳しくは、Shluinsky (2021)、Ebata and Ohsaki (2021)、ウズベク語と現代ウイグル語の補助動詞に関しては Ibrahim (1995)、トルコ語とウイグル語の補助動詞に関しては Kuribayashi (2021) がある。

モンゴル語やウズベク語の補助動詞構造は 2 語からなり、日本語や朝鮮語のように生産性のある（統語的）複合動詞構造を持たない。例えばモンゴル語の *avčr*-「持って来る」は *av-č ir-: take-CVB.IPFV come-*「取って 来る」の収縮形であり（小沢 1983: 6）、こうなると辞書に掲載される単なる 1 語彙となってしまう。*avčr-a-x: bring-E-PTCP.IPFV* と、母音調和の観点からも完全なる 1 語としての性格を示す。

## 2. 研究方法

影山 (1993) と姫野 (2018) による 30 語 (1.1.節参照) を対象とする。

柏崎・田山 (編) (2023: 1403-1437) (『日本語複合動詞活用辞典』) にはこの辞典で見出し語として取り上げた語についての後項動詞による索引がある。この索引にある語から、まず筆者は使用頻度が高く意味的にも一義的に把握しやすいと思われる語を任意に 5 語選んだ。ただし索引に 5 語以下しか語例のない複合動詞については 2 語や 3 語のみとなっているものもある（「～損じる」「～損ねる」「～あぐねる」など）。一方、「～始める」「～続ける」、「～終わる」、「～終わる」、「～過ぎる」、「～得る」、「～かねる」の 7 語については、できあがった複合語の意味が透明で意味の変容が起こらず、生産性が高すぎるため、基本的に辞書

<sup>3</sup> 塚本 (1997) が抱合言語、輯合言語・多総合的言語を上記のように捉え、これらを同一視している点については 5.1.節で問題にする。塚本 (1997) は上記のように、特にアルタイ諸言語との対照に関して、実証的な研究を行っていない点にも問題がある。

には複合動詞が立項されない(「～得る」には「有り得る」「成し得る」、「～過ぎる」には「行き過ぎる」「移り過ぎる」「通り過ぎる」「走り過ぎる」「行(ゆ)き過ぎる」のみ立項されている)。「～合う」、「～出す」などは意味の変容が起こるものの、やはり生産性が高いためかなり多数の語が立項されている。以上のような語については、日本語の教科書で早くに導入される基本的な動詞である次の5語(行く、帰る、飲む、食べる、見る)について複合動詞を作成し調査を行うことにした。ただしその組み合わせが自然ではないもの(「行き終える」など)、その組み合わせが特別な意味を持ちうるもの(「行き過ぎる」など)については作成・調査しなかった。「～得る」も文語的であるため、「有り得る」「成し得る」のみ調査した。

次に上記の7語以外の複合動詞については、柏崎・田山(編)(2023)の各複合動詞の項における例文も参考に、それぞれの複合動詞の例文を用意し複合動詞例文調査票を作成した(3.1.節で示す)。

ただこのようにして調査票を作成すると、頻度が高い自然な複合語で調査することはできるが、統語的でないものも出てきてしまう。開始・継続・終了を示す「～始める、～続ける、～終える、～終わる」以外の複合動詞は統語的複合動詞であると同時に語彙的複合動詞としての用法も持っているためである。

そのため影山(2013:80-83)における代用形「そうする」によるテスト(1.2.節参照)を行った(3.1.節で示す)。その結果、「～かける」、「～つける」については統語的複合動詞としての用例がなかったため、例文を補った。さらに一部の文語的な動詞については統語的複合動詞の用例を作ることは不可能であると判断した(後述)。

このようにして作成した例文調査票を用いて、朝鮮語、モンゴル語、ウズベク語の話者に依頼し、この調査票の例文を日本語から各言語に翻訳していただいた(3人の話者とも高い日本語力を有している)。そこから日本語の複合動詞の機能と対応する表現(以下では「対応表現」と呼ぶ)のバリエーションを探ることにした。コンサルタントの情報は下記である。なおウズベク語の話者はサマルカンド・タジク語とのバイリンガルである。

表1: コンサルタントの情報

|       | 出身地     | 生年   |
|-------|---------|------|
| 朝鮮語   | 慶尚北道醴泉郡 | 1978 |
| モンゴル語 | ウランバートル | 1989 |
| ウズベク語 | サマルカンド  | 1997 |

対応表現の判断のしかたは次のようなやり方に拠った。日本語の調査例文において、複合動詞に先行する部分に対応する訳語とは思われない要素で、複合動詞の持つ意味を何らかの形で実現していると思われる要素があれば、それを対応表現と判断した。

### 3. 調査・分析の準備

#### 3.1. 調査票およびその例文の吟味

影山(2013:96)では1.1.節で見たように27の統語的複合動詞を挙げているが、いずれも「墜落しかける、印刷しだす、到着し始める、、、」のように「漢語+する」の例で示してい

る。筆者（1965 年東京生まれ）の内省では、「漢語＋する」型の動詞の方が代用形「そうする」によるテストでは統語的複合動詞と判定されやすくなると考えられる。実際に頻度の高そうな和語による複合動詞にテストを行ってみると、統語的複合動詞と判断できないものも多く、またその判断が難しいものも多く観察された<sup>4</sup>。判断が難しいものの中には文語的な語であるために内省が利かないものも含まれているが、そもそも統語的複合動詞と語彙的複合動詞の境界は影山 (2013) が主張するほど明確なものではないと考える。

以下の例文において、下線を付したものはテストをパスし統語的複合動詞の例文と考えられるもの、# をつけたものはパスせず語彙的複合動詞の例文と考えられるもの、? および波線の下線を付したものはその判断が難しいと考えたものである<sup>5</sup>。例えば? と判断した「A は一晩中踊りまくった。B もそうしまくった」も言えそうではあるが、筆者の内省ではやや不自然であり、「A は一晩中踊りまくった。B もそうした」のように複合動詞全体を代用したほうがずっと自然に感じられる。

調査に使用した例文の一覧（統語的複合動詞であるか否かの判断を含む）

- [1] ～かける : # (私は不満を上司に) 訴えかけ-た / # (ネコがネズミを) 追いかけて-た / # (敵に聞かれないよう耳でそっと) ささやきかけ-た / # (壁に棒を) 立てかけ-た / # (泣いている子に「どうしたの」と) 問いかけ-た / (ちょっと) 食べかけ-て (「まずい」と言ってやめてしまった)
- [2] ～かかる : # (トラがシカに) 襲い掛か-った / (その古い家はところどころ) 崩れかか-っている / # (貧血でフラッシュと床に) 倒れ掛か-った / # (あの人の家の前を) 通りかか-った / # (酔った男が通行人に) なぐりかか-った
- [3] ～出す : (男の子は叱ると泣いて) 暴れ出-した / ? (すると相手が先に) 言い出-した / # (そこから水が) 流れ出-した / ? (合図とともに) 走り出-した / # (急に雨が) 降り出-した
- [4] ～始める : (その道に沿って) 行き始め-た / (ベルが鳴って生徒たちは) 帰り始め-た / (もらってすぐに) 食べ始め-た / (もらってすぐに) 飲み始め-た / (テレビをつけて) 見始め-た
- [5] ～まくる : ? (試験が終わって) 遊びま-くった / ? (一晩中) 踊りま-くった / ? (空港でお土産を) 買いま-くった / ? (言いたかったことを一気に) しゃべりま-くった / ? (あの男が道で) どなりま-くった
- [6] ～続ける : (その道をずっと) 行き続け-た / (黙ってそれを) 食べ続け-た / (全部飲みきるまで) 飲み続け-た / (あまり面白くなったがその映画を) 見続け-た
- [7] ～終える : / (休み時間が終わるまでに) 食べ終え-た / (その人はあつという間にそれを) 飲み終え-た
- [8] ～終わる : / (10 分で) 食べ終わ-った / (30 秒で) 飲み終わ-った / (その動画は 3 分で) 見終わ-った
- [9] ～尽くす : # (言いたかったことは全部) 言い尽く-した / ? (持ってきたものは全部) 売り尽く-した / ? (これまでの苦勞を) 語り尽く-した / ? (必要なことは) 調べ尽く-した / ? (棚にあったお菓子を) 食べ尽く-した
- [10] ～切る : # (全て間違いないと) 言い切-った / ? (たくさんあったけど) 数え切-った / ? (相手の猛攻を何とか) こらえき-った / ? (もらったお金はすぐに) 使い切-った / # (追いつかれそうになったが、ゴールまで) 逃げ切-った
- [11] ～通す : ? (自分の意見を最後まで) 押し通-した / (いろいろ訊かれたがそのことを) 隠し通-した / (何を言われ

<sup>4</sup> 影山 (2013) はさらに①敬語「おーになる」への代入、②受身への変換、③漢語サ変動詞への変換、④[[連用形]に[連用形]]への代入、の4つのテストを提案しているが、いずれも動詞による制限があり、代用形「そうする」によるテストよりも使用可能な範囲が狭く、全般的な使用には適していない。

<sup>5</sup> 筆者 1 名の内省による判断となっている点には問題があるかもしれない。この点については今後アンケート調査を行ってみたいと考えている。

ても) 黙り通し-た／＃(厚い布もその針で) 貫き通し-た／(1年間その約束を) 守り通し-た

[12] ～抜く : # (一番良いのを3つだけ) 選び抜い-た／?(答えが出るまで長い時間) 考え抜い-た／＃(たくさん練習して技を) 鍛え抜い-た／＃(卒業後どうするか) 悩み抜い-た／＃(うそを言っているとすぐに) 見抜い-た

[13] ～果てる : # (あまりのひどさに) あきれ果て-た／＃(泣き疲れて涙も) 涸れ果て-た／＃(しばらく見ない間にその町はすっかり) 変わり果て-た／＃(いよいよ方法がなくなって) 困り果て-た／＃(ずっと歩き続けてすっかり) 疲れ果て-た

[14] ～損なう : ? (寝坊してその電車に) 乗り損な-た／?(手が震えて) 書き損な-た／?(着くのが遅れて) 聞き損な-た／?(時間に遅れて) 食べ損な-た／?(その日に休んで記念品を) もらい損な-た

[15] ～損じる : ? (書類を2枚も) 書き損じ-た／?(昨日も今日も連絡を) 仕損じ-た

[16] ～そびれる : ? (さっき会った時に言おうと思っていたのに) 言いそびれ-た／?(深夜に火事があって) 寝そびれ-た／?(そのわけを) 話しそびれ-た

[17] ～損ねる : (10時4分の電車に) 乗り損ね-た／(昨日のうちに書こうと思っていたのにメールの返事を) 書き損ね-た／(その理由を) 聞き損ね-た／(昼ご飯を) 食べ損ね-た

[18] ～かねる : ? (そのわがままな子をどうにも) 扱いかね-た／(どっちにしようか) 決めかね-た／(さんざん頼まれて) 断りかね-た／＃(傷の痛みに) たまりかね-て(思わず声を漏らした)／＃(会場ではその歌手の登場を今か今かと) 待ちかね-ていた

[19] ～遅れる : # (提出期限に) 出し遅れ-た／＃(安全対策が) 立ち遅れ-た／＃(その選手はスタートで) 出遅れ-た／＃(その火事では一人の老人が) 逃げ遅れ-た／＃(車の渋滞で飛行機に) 乗り遅れ-た

[20] ～忘れる : (手伝ってもらったのにお礼を) 言い忘れ-た／＃(バスの中に傘を) 置き忘れ-た／(飲み物を) 買い忘れ-た／＃(ホワイトボードに落書きを描いて) 消し忘れ-た／(冷蔵庫にアイス)を) しまい忘れ-た

[21] ～残す : # (精一杯やったから) 思い残-す(ことはない)／＃(急いでいてあごのヒゲを) 剃り残し-た／＃(お腹がいっぱいでっこうたくさん) 食べ残し-た／＃(材料の野菜を半分以上) 使い残し-た／(全部塗ったと思ったが左の端の方を) 塗り残し-た

[22] ～誤る : # (あせって) 言い誤-つ-た／＃(進むべき方向を) 思い誤-つ-た／＃(ぼうっとしていてうっかり) 聞き誤-つ-た／＃(別人を友人だと) 見誤-つ-た

[23] ～あぐねる : # (どうしたらいいか) 考えあぐね-て-いた／＃(あれこれとずっと) 思いあぐね-た／＃(失くしたカードを) 探しあぐね-たが(あきらめた)／＃(その城を) 攻めあぐね-た

[24] ～過ぎる : /＃(居眠りして降りる駅を) 行き過ぎ-た／＃(いくつかの季節が足早に) 移り過ぎ-た／＃(急行がその駅を) 通り過ぎ-た／＃(ネコが一匹私の前を) 走り過ぎ-た／(ちょっとたくさん) 食べ過ぎ-た／(つまらないテレビ番組を) 見過ぎ-た

[25] ～直す : (間違えてあわてて) 言い直し-た／(やめようと思ったが) 考え直し-た／(どうも正しくないようなので) 数え直し-た／(気に入らなかったの) 作り直し-た／?(提出する前にもう一度) 見直し-た

[26] ～つける : # (犯人は人質の背中に銃口を) 押しつけ-た／＃(警察は証拠がないのにその男を犯人だと) 決めつけ-た／＃(クリスマスツリーに星の飾りを) 飾りつけ-た／＃(真夏の太陽が私に) 照り付け-た／＃(怒ってふざけている子供を) 睨みつけ-た／(辛いものはあまり) 食べつけ-て-いない(ので、食べられない)

[27] ～慣れる : (一ヶ月も経ったらだいが学校に) 通い慣れた／(この町にもだいが) 住み慣れた／(新しいパソコンを買ってからやっと) 使い慣れた／(こんな風景ももう) 見慣れた

[28] ～飽きる : (子供はすぐそのゲームに夢中になったが) すぐに遊び飽きた／(あの人の自慢話はもう) 聞き飽きた／(日本料理ももう) 食べ飽きた／(この本は何度も読んで) 読み飽きた

- [29] ～合う : (子供たちはそのおもちゃを) 奪い合っ-た / # (2本の糸が) 絡まり合っ-た / (困った時に二人はいつも) 支え合っ-た / (すぐに無事を) 知らせ合っ-た / (そのお祭りでみんなトマトを) 投げ合っ-た
- [30] ～得る : # (ここではそんなことも) あり得る / # (あきらめずにやれば何事も) なし得る

上述のように姫野 (2018) は「彼もそうしかかった／彼もそうし損ねた／彼もそうなり果てた」の3つの複合動詞が統語的なものであると判断したが、実際に使用頻度の高そうな動詞でテストしてみると「～しかかる」と「～し果てる」では多くの例文がテストをパスしない。これは主に動作主によって意志的にコントロールできない複合動詞であることがその理由であると考えられる<sup>6</sup>。

さらに上記の判断にみられるように後項動詞自体の生産性が高くても、複合動詞全体が少しでも独自の語彙的意味を持ち始めるとテストをパスしなくなる。しかしこれらを全て統語的複合動詞ではないという理由で切り捨て、調査しないことにすると、本来の目的である日本語の複合動詞の対応表現の調査としてはきわめて不十分なものになってしまう。日本語における統語的複合動詞と語彙的複合動詞の連続的状況が本稿の対象言語においてどのように表現されるかを見るために、今回は上記のような調査例文による結果全体を分析する。統語的複合動詞の対応表現に絞って分析・考察を行う場合には、上記例文のうち下線および波線を付した例文のデータを特に分析対象とすることにする。

### 3.2. 各言語の背景知識

本稿の対象言語は、3言語とも2つの動作が同時的に生じる場合に使用する副動詞形と、2つの動作が継起的に生じる場合に使用する副動詞形の2つの副動詞形を持つ（朝鮮語：  
-go, -A<sup>7</sup>, モンゴル語：-ž/-č, -AAd, ウズベク語：-a/-y, -(i)b）。両者のグロスを以下では CVB.IPFV, CVB.PFV とする。朝鮮語では複合動詞的な表現の前項動詞に -gi: NMLZ による名詞化や副動詞形 -Aso: CVB.ANT 「～してから」、-goi: CVB.FIN 「～するように」、-daga: CVB.SIM 「～しかけて、～しながら、～する途中で」も用いられる。モンゴル語では非分離副動詞形 -(A)n: CVB.MOD(al), 継続副動詞形 -sAAr: CVB.ABTEMP(oral) も用いられる。ウズベク語では -(i)sh: NMLZ による名詞化も用いられる。

朝鮮語のハングルからの翻字は河野 (1955) に基づく（ただし ə は ㅅ とし、w には o/u を用いている）。朝鮮語における漢字語は《 》内に漢字を入れて示す（ただし便宜上繁体字でなく日本で用いられている簡体字で示した）。モンゴル語の翻字は次のような方式に拠っている： a=a, б=b, в=v, г=g, д=d, е=je, ё=jo, ж=ž, з=z, и=i, й=j, к=k, л=l, м=m, н=n, о=o, ө=ö, п=p, р=r, с=s, т=t, у=u, ү=ü, ф=f, х=x, ц=c, ч=č, ш=š, щ=šč, ъ=”, ы=y, ь=’, э=e, ю=ju, я=ja。ウズベク語の表記はローマ字正書法による。

以下での朝鮮語の諸形式の意味は油谷他（編）(1993) に、モンゴル語の諸形式の意味は小沢 (1983) に拠った。ウズベク語の諸形式の意味はインディアナ大学チュルク・イラン語彙方言学センターのウズベク語-英語辞典に拠った。これ以外の先行研究に拠った場合は出典

<sup>6</sup> ただし「その古い家はところどころ崩れかかっている。その隣の家もそうしかかっている。」は言えそうである。その理由は現時点で筆者にはうまく説明できない。

<sup>7</sup> 大文字は母音調和等による異形態のあることを示す。

を示すが、この3つに拠った場合にはその出典を示していないことを断っておく。

#### 4. 複合動詞の分野別の研究結果

調査結果のデータ本体は稿末に付録として示した。これには資料的な価値があると考えている。以下での形式の分析はまず分野別に、[4.1. アスペクト (始動・継続・完了)] と [4.2. 可能不可能および準アスペクト (未遂・過剰行為・再試行・習慣・可能)]、[4.3. ヴォイス (相互行為)] に分けて示すことにする。なお複雑な構造のものにはできる限りグロスによる説明を付けた。

##### 4.1. アスペクト (始動・継続・完了)

ここでは [始動: ~かかる、~かける、~だす、~始める]、[継続: ~まくる、~続ける、~続く]、[完了: ~終わる、~終わる、~尽くす、~きる、~通す、~抜く、~はてる] の14の複合動詞について順に見て行く。

###### 4.1.1. 始動

「~かかる、~かける」の語彙的複合動詞としての対応表現にはどの言語でもあまり具体的に明確な形式が現れなかった。朝鮮語では「なぐりかかった」で *dɔmby-ɔ#duur-* 「襲い掛かって (入る)」が得られた。*duur-* には「入る」の意義から派生し「(病気に) なる、(ある症状が) 出る、できる」「(感情が) 生ずる」などの意があり、これは複合動詞後項による対応形式とみることができるだろう。ウズベク語の「なぐりかかった」でも *ur-ib ket-* 「打って去る」が得られた。*ket-* には ‘(after + (i)b) indicates extremeness or quickness of an action, similar to English phrasal verbs using “up” or “out”’ との記述がある。しかしこれら以外では「~かかる、~かける」の動作の方向などの語彙的意味も表現されず、単に日本語の複合動詞の V1 の意味だけが翻訳された。

一方「~かける」の統語的複合動詞としての対応表現については「(ちょっと) 食べかけて (「まずい」と言ってやめてしまった)」という文で調査を行った。朝鮮語では *mɔg-daga* と「食べ-かけて」と表現されたが、これは接続形式である *-daga* に「~しかけて」の意があるためである。モンゴル語では *id-e-sxij-g-eed: eat-E-IMM-E-CVB.PFV* / *id-e-sxij-sn-ee: eat-E-IMM-PTCP.PFV-REFL* / *ams-a-sg-eed: taste-E-IMM-CVB.PFV* 「少し食べて」「少し食べたのを」「試食して」が用いられた。Janhunen (2012: 166) によれば、momentaneous (rapid, abrupt) action を示す副動詞形 *-s* はハルハ・モンゴル語で *xij-* 「する」および *g(e)-* 「言う」と固定的に結びついて瞬時アスペクト (immediative aspect) *-sxij-/ -sg-* をなしている。上記の *ams-a-sg-eed* では歴史的になお過渡的な段階にあるためか、*g(e)-* により母音調和が守られていない形になっている<sup>8</sup>。ウズベク語では *ye-b ko‘r-: eat-CVB.PFV see-* 「食べて 見る」が用いられた。*ko‘r-* 「見る」については ‘(after V+ (i)b) to try, to venture’ と補助動詞としての意味が記述されている。

日本語で「~かかる」の統語的複合動詞の意味が実現しているとみられる「崩れかかる」

<sup>8</sup> 査読者の1名の方の御指摘による。記して感謝申し上げたい。

の対応表現は、朝鮮語では *munoji-go 'iss-collapse-CVB.IPFV exist* 「崩壊している」、モンゴル語では *cuur-san baj-break-PTCP.PFV exist*<sup>9</sup> 「ヒビが入っている」、ウズベク語では *qula-b tush-collapse-CVB.PFV fall* 「崩れ落ちる」であった。ウズベク語の *tush-* については ‘(after V+ib) indicates completed action’ との記述があるが、ここでは語彙的意味の方が実現していると考えられる。したがってここでは3言語のいずれの表現にも「～かかる」の統語的複合動詞の意味に対応する具体的な形式が見いだされない。

次に「～出す、～始める」についてみると、朝鮮語では *V-gi sijag#ha-: V-NMLZ start#do* 「～し始める（～することを《始作》する）」、モンゴル語では *V-CVB.IPFV exel-* 「～し 始める」、ウズベク語でも上述の *V-CVB.PFV ket-* の他に *V-CVB.IPFV boshla-* 「～し 始める」という補助動詞による表現が使われる。「流れ出した」については、「（そこから水が）流れ出した」という例文を用い、おそらくは「そこから」という出所が文中に含まれているために朝鮮語とモンゴル語で *V-CVB.IPFV na-o-* 「～し 出て-来る」、*V-PTCP.PFV gar-* 「～し 出る」が用いられているが、この要素はアスペクトでなく、外への移動を示すものと考えられる。

#### 4.1.2. 継続

ここでは「～まくる、～続ける、～続く」の結果を検討する。

「～まくる」についてみると、「空港でお土産を買いまくった」に関してはどの言語も「たくさん（Nを）買う」のように表現している。「遊びまくる」は朝鮮語では *gyoisog V-* 「《継続》して～する」、ウズベク語では補助動詞 *ber-* 「与える」に拠っていて、次の「～し続ける」と同じ表現をとる。モンゴル語では *maš {ix/olon}* 「とても 多く/たくさん」／*xan-a-tl-aa: be.satisfied-E-TERM-REFL* 「満足するまで」によって副詞的に表現された。

「踊りまくる」と「どなりまくる」では朝鮮語に複合動詞後項とみなせる *dai-* が観察された。*dai-* は「(動詞の連用形について) 程度の甚だしいことを表わす」激しく...する、しきりに...する、...したてる、...し続ける、...しまくる、...しつくす」の意を持つ。

ウズベク語では「しゃべりまくる」「どなりまくる」に補助動詞 *V-CVB.PFV tashla-* が観察された。*tashla-* ‘to throw’ は ‘(after V+(i)b) to do quickly and thoroughly’ と記述されている。

次に「～続ける」の対応表現には、朝鮮語では一貫して *gyoisog V*、ウズベク語では *V-aver-/V-yver-* が用いられた。島田 (2019: 222) はウズベク語のこの接辞について「-ver 補助動詞 *bermoq* 「(単独での意味は) 与える」の転訛形。副動詞-a/-y とともに用い、動作の継続、反復の意味を表わす」としている。モンゴル語では「行き続けた」以外は *V-sAAr (l) baj-: V-ABTEMP EMPH be-* を用いて表されていた。*-sAAr* は継続副動詞、*l* は強意の小詞、*baj-* は存在の動詞である。モンゴル語の「行き続ける」でこの構造が用いられなかった理由は「その道をずっと行き続けた」の「ずっと」の対応部分と判断した *ürgelžl-üül-e-n: continue-CAUS-E-CVB.MOD* 「続ける」の非分離副動詞形が使用されているためだと考えられる。

「～続く」のうち「(地震や洪水など災難が) うち続いた」では「うち-」の方が接頭辞化していて具体的な意味を持たない。このためどの言語でも単に「続く」の意の動詞で表現さ

<sup>9</sup> コンサルタントによれば、崩壊の度合いが激しければ他に *nur-a-x šax-: collapse-E-PTCP.IPFV be.going.to* 「崩れそうだった」のような表現も考えられるという。

れた。「(一週間も雨が) 降り続いた」に対しては、朝鮮語では *gyoisog V-*、モンゴル語では *ürgelžl-e-n V-*、ウズベク語で *V-aver-* が用いられた。

#### 4.1.3. 完了

朝鮮語では「～終わる、～終わる、～尽くす」に関して、もっぱら副詞による *da V-*「全部 *V-*」が用いられたが、「食べ終わる、飲み終わる、食べ終わる、飲み終わる、売り尽くす」には *V-'Aci'u-* も用いられる。油谷他(編)(1993:1751)によれば補助動詞 *ci'u-* は「動詞の連用形に付いて「～してしまう」の意を示す。「(相手の猛攻を何とか) こらえ切った」では *cam-'a#nai-* と *nai-*「出す」が、「使い切った」では *ss-ǎ#bǎri-* と補助動詞 *bǎri-*「捨てる」が用いられた。油谷他(編)(1993:368)によれば補助動詞 *nai-* は「動詞の連用形に付いてその動作を自分の力で成し遂げる意を表す：十分に…する、…しきる、…し抜く、…し終わる」とされており、補助動詞 *bǎri-* は「動詞の連用形に付いて動作の完了を表わす：…(して) しまう」とされている。一方「言い切った」には *dan'on#ha-* (《断言》する) のような漢語による語彙的表現が、「逃げ切る」には *monjo docagha-*「先に《到着》する」のような異なった発想の表現が用いられた。「～通す」と「～抜く」には多様な動詞表現が観察された。

「押し通す」は *mir-'ǎ#but'i-*「押し#付ける」、「隠し通す」は *ggut=ggaji sumgi-*「終わり=まで 隠す」、「黙り通す」は *cimmug='uro 'irgwan#ha-*「《沈黙》=で《一貫》する」、「突き通す」は *goanton#ha-*「《貫通》する」もしくは *ggui#ddurh-*「貫いて#穴を開ける」、「守り通す」は *jiki-ǎ#nai-*「守り#出す」のように表現された。ここでも複合動詞後項である *nai-*「出す」がアスペクト的に機能していることが注目される。「～抜く」においては、「選び抜く」は *bbob-*「選び抜く」、「考え抜く」は *saingag#ha-*「考える」、「鍛え抜く」は *danryon#ha-*「《鍛錬》する」、「悩み抜く」は *gomin#ha-*「《苦悶》する」のように、より詳細な意味を伝えられる漢語動詞も用いられているものの、基本的に単純動詞のみが用いられていて複合動詞「～抜く」のニュアンスは特に表現されない。

「見抜く」に対する *ar-'a#cai-: know-CVB.PFV#notice-*「知って#(ちらっと見てすぐ) 気づく」もしくは *nunci#cai-*「直観#気づく」という表現も複合語にはなっているが語彙的な意味のみを示し、複合動詞「～抜く」のニュアンスを表現するものにはなっていない。

「～果てる」の対応表現ももっぱら単純動詞であり、この複合動詞のニュアンスを表現するものにはなっていないが、「涸れ果てる」の対応表現には *(nunmur=do) marr-a bǎri-*「涸れて しまう」と補助動詞 *bǎri-* が用いられた。

モンゴル語では「～終わる、～終わる」には *V-ž { duus- / duusga- }*「～し 終わる／終わる」がよく対応する。「～切る」でも「数え切った」「使い切った」においては *V-ž duusga-*「～し 終わる」が用いられた。一方、「～尽くす」にはもっぱら *büx N-{ACC/REFL}* あるいは *büx-E-REFL V-* のように *büx*「全て (の)」による表現が用いられた。「～切る」には上記の *V-ž duusga-* も用いられたが、「言い切る」では *batl-a-n xel-:approve-E-CVB.SIM say-* と前置的な補助動詞が、「こらえ切る」では *tes-č gar-: endure-CVB.PFV go.out-* と補助動詞的な *gar-*「出る」が、「使い切る」では語彙的な *ür-*「無駄遣いする」が、「逃げ切る」では可能による *zugt-a-ž čad-: run.away-E-CVB.IPFV can-* がそれぞれ用いられた。「～通す」と「～抜く」には多様な対応表現が現れた。「～通す」において、「押し通す」は *xamgaal-*「守る」、「隠し通す」は *čandl-*

a-n xamgaal-: be.strict-E-CVB.SIM protect-「固く厳しくして 守る」、「黙り通す」は duu=güj l baj-: voice=nonexist EMPH be-「声なしで こそ いる」、「突き通す」は cool-「貫く」、「守り通す」は bijel-üül-: realize-CAUS-「(約束を) 実行する」のように表現された。「～抜く」においては、「選び抜く」は songo-「選ぶ」、「考え抜く」は bod-「考える」、「鍛え抜く」は sajžr-uul-: be.better-CAUS-「向上させる」、「悩み抜く」は maš ix šanal-: very much feel.pain-「とても たくさん 苦しむ」、「見抜く」は med-「知る」のように表現された。この中では、「黙り通す」の強調小詞による継続的な状態表現、および「悩み抜く」における副詞による表現が日本語の複合動詞のニュアンスを実現するものになっていると考えられる。「～果てる」に関しては、「涸れ果てる」「困り果てる」にそれぞれ gar-a-x-aa boli-: go.out-E-PTCP.FUT-REFL stop-「出ることを止める」、ol-o-x-oo boli-: find-E-PTCP.FUT-REFL stop-「見出すことを 止める」のような表現の用いられたことが注目される。

ウズベク語では「～終わる」には ye-y-ish-ni tugat-: eat-E-NMLZ-ACC finish「食べることを 終わる」、ich-ish-ni tugat-: drink-NMLZ-ACC finish「飲むことを 終わる」のように tugat- が、「～終わる」には ye-b bo‘l-「食べて なる」のように bo‘l- が用いられる。tugat- は tuga-「終わる」の使役形で動作名詞の対格形に後続してその動作の終了を示す。bo‘l-は ‘(after V+(i)b) indicates a finished action o‘qib bo‘ldim I finished reading it.’ と記述されている。「～尽くす」に関しては対応表現がなく、単に動詞の過去形で表現されるが、対象物に hamma-si-ni: all-3POSS-ACC「その全部を」という表現が加えられることもある。「～切る」にはやはり bo‘l-が多く用いられるが、「こらえきる」では dosh ber-a ol-「(dosh ber-)こらえて 取る」のように ol-「取る」も用いられた。これは ol-が ‘(after V-a/y) to be able to do s.t.’ という機能を持ったため、「～切る」には完了から可能へと連続する意味があるため、この意味が翻訳されたものと考えられる。「～通す」の対応表現は主に oxir-i-gacha: last-3POSS-TERM「最後-その-まで」という表現による。「～抜く」および「～果てる」にも上述の ol-「取る」、tush-「降りる／落ちる」、ket-「去る」が補助動詞として用いられた。「考え抜く」は o‘yla-b top-: think-CVB.PFV find-のような表現であったが、top-には補助動詞の用法がないため、これは語彙の意味を表現しているものと考えられる。

#### 4.2. 可能不可能および準アスペクト（未遂・過剰行為・再試行・習慣・可能）

ここでは[未遂：～損なう、～損じる、～そびれる、～損ねる、～かねる、～遅れる、～忘れる、～残す、～誤る、～あぐねる]、[過剰行為：～過ぎる]、[再試行：～直す]、[習慣：～つける、～倒れる、～飽きる]、[可能：～得る]の16の複合動詞の対応表現についてみる。これらは可能／不可能のような意味的側面を持つとともに、アスペクトに準ずる意味も持っていると考えられるため「可能不可能および準アスペクト」と呼ぶことにした。しかしこのような分類や名づけは何らかの客観的な基準によるものではなく、あくまでも便宜的なものであることを断っておく。

##### 4.2.1. 未遂

朝鮮語での「～損なう、～損じる、～そびれる、～損ねる」に対する対応表現はもっぱら不可能表現 (V-ji mos-ha-: V-IRR impossible-do-, (jar) mos-V-: (well) impossible-V-, (jar) V-‘ur

su 'obs-: (well) V-ADN.FUT way nonexistent-) であった。「寝そびれる」には ja-m='ur sərci-: sleep-NMLZ=ACC fail が観察された。sərci- は語彙的な制限はあるが対格の（動作）名詞をとって「～しそびれる」の意を実現する動詞である。さらに sər- は接頭辞で「十分でない、未熟である」の意を示す。「乗り損なう」には nohci-「乗り遅れる」による表現も使用可能とされた。「～かねる」については、V-ji mos-ha- を用いる動詞もあるが、単なる否定表現で言うものが多い。

モンゴル語での「～損なう、～損じる、～そびれる、～損ねる」に対する対応表現は V-ž čad-san=güj: V-CVB.IPFV can-PTCP.PFV=NEG「～することができなかった」、{N/V-x}-AA mart-čix-: N/V-PTCP.FUT-REFL forget-COMP「忘れてしまう」、V-ž amž-san=güj V-CVB.IPFV be.in.time-PTCP.PFV=NEG「～する暇がある、間に合う、～する能力がある、成功する、達成する」、N-AA ald-: N-REFL lose「失う、なくす、誤る」、V-x-AA bol'-: V-PTCP.FUT-REFL stop「止める」などの多様な動詞によって表現され、さらに単に動詞の否定によるものもあった。「乗りそこなう、乗り損ねる」には xocor-「後れる、残る」という総合的な意味の語彙が対応していた。

「～かねる」については、V-ž čad{-aa/-san}=güj: V-PTCP.PFV can-{-PTCP.PRS/-PTCP.PFV}=NEG「できない」を用いる動詞もあるが、単なる否定によるものもある。「待ちかねる」には tes-e-n jada-n V(xülee)-ž baj-: endure-E-CVB.MOD cannot-CVB.MOD V-CVB.IPFV be-「我慢 できず 待っていて」と jad-「できない、不可能である、苦しむ、悩む」を用いた表現も観察された。

ウズベク語での「～損なう、～損じる、～そびれる、～損ねる、～かねる」に対する対応表現はもっぱら V-a ol-ma-: V-CVB.IPFV take-NEG- のように ol-「取る、得る」の否定によって表現する。ただし「乗りそこなう、乗り損ねる」に対しては o'tkaz-ib yubor-: let.pass-CVB.PFV send-「通らせて 送る」のように表現する。

朝鮮語での「～遅れる」に対する対応表現は、「立ち遅れる」「出遅れる」では複合動詞ではなく単に nuji-「遅れる」の動詞 1 語で表現されたが、「逃げ遅れる」「乗り遅れる」では（状況的な）不可能表現 V-ji mos-ha- が用いられた。「出し遅れる」では nuji-go V-: get.late-CVB.FIN V-「遅れて 出す」のような前置的表現が観察された。モンゴル語での「～遅れる」に対する対応表現は N-g ald-: N-ACC lose「失う」、V-ž čad-san=güj: V-CVB.IPFV cannot-PTCP.PFV=NEG「できない」の他、「立ち遅れる」には xojšl-uul-: get.late-CAUS-「遅れさせる」、「乗り遅れる」には xocr-「後れる、残る」のような動詞 1 語であった。「出遅れた」には xocor-č gar-: fall.behind-CVB.IPFV get.out-「後れて 出る」のような表現も観察された。ウズベク語での「～遅れる」に対する対応表現は N-DAT ulgur-a ol-ma-: N-DAT be.on.time-CVB.IPFV take-NEG- もしくは kechik-「遅れる」の動詞 1 語で表現された。ただし「乗り遅れる」には上記の o'tkaz-ib yubor-「通らせて 送る」が用いられた。

朝鮮語での「～忘れる」に対する対応表現は {N=ACC / V-nun gəs=ACC} 'ij-: {N=ACC / V-PTCP.IPFV thing=ACC} forget-「{N を / V する ことを} 忘れる」であった。ただし「置き忘れた」には「忘れる」を含まない表現である du-go nairi-: put-CVB.IPFV go.down-「置いて（そのままにして）降りる」が用いられた。モンゴル語での「～忘れる」に対する対応表現は V{-x/-dAg}-AA mart-čix-: V{-PTCP.FUT/-PTCP.HBT}-REFL forget-COMP-「～することを 忘れる」であった。「置き忘れた」のみ orxi-「見捨てる、置き去りにする、放棄する」もしくは mart-「忘れる」の動詞 1 語で表現された。ウズベク語での「～忘れる」に対する対応表現は V-

sh-ni unut-: V-NMLZ-ACC forget- 「～することを 忘れる」であった。なお「～忘れる」の調査に際して、本稿では5つの表現を調査したが、このうち「置き忘れる」以外は「～することを忘れる」を意味しており、「未遂」の調査にふさわしい例文であった（「{言い／買い／消し／しまい} 忘れる」）。しかし「(バスの中に傘を) 置き忘れた」という調査例文の方は「～したことを忘れていた」ことを意味する<sup>10</sup>。したがって上記の各言語の調査結果において違う構文が得られたものと考えられる。日本語と本稿の対象言語の表現可能な範囲の差異の原因を考察するとともに、日本語の複合動詞のもつ意味の拡がりにも注意したい。

朝鮮語での「～残す」に対する対応表現は「食べ残す」「使い残す」では V-go namgi-: V-CVB.IPFV leave- 「～し 残す」であったが、「塗り残す」では N=NOM nam- 「～が 残る」という自動詞による表現が、「剃り残す」では mos-V による不可能表現が用いられた。「思い残す」は huhoi#ha- 「《後悔》する」で語彙的に表現された。モンゴル語での「～残す」に対する対応表現は「食べ残す」「使い残す」では üld- 「残す」動詞1語で表現された。「剃り残す」「塗り残す」は V-AA=güj orxi-: V-PTCP.PRS=NEG leave- 「しない(状態で) 置き去りにする、放棄する」のように、「思い残す」は「遺憾・残念に思う」で語彙的に表現された。ウズベク語での「～残す」に対する対応表現は V-may qol-dir- V-CVB.NEG leave-CAUS- である。ただし「思い残す」は afsuslan- 「残念に感じる、後悔する」によって語彙的に表現された。

朝鮮語での「～誤る」に対する対応表現は jarmos V であり、副詞的に用いられた名詞 jarmos 「過ち」>「誤って、間違っ、うっかり」による表現である。「言い誤る」は N=ACC jarmos#ha- 「(言葉を) 間違っ」によって表現された。モンゴル語での「～誤る」に対する対応表現では形容詞／副詞の buruu 「誤った」を動詞よりも前に用いて、buruu { sons-/xar- } 「誤って 聞く／言う」のように言う。もしくは名詞項の方を buruu によって修飾し、buruu yum xel- 「間違っ ことを 言う>言い誤る」、buruu songolt xij- 「間違っ 選択を する>思い誤る」のように表現する。ウズベク語ではもっぱら副詞 noto'g'ri 「誤って」を動詞の前に用いて noto'g'ri V- のように表現する。

朝鮮語での「～あぐねる」に対する対応表現は、動詞によって V-daga jici- 「V-する途中で 疲れる／へたばる」、V='i ddo'oru-jj 'anh- 「(考え) が 浮かば ない」、gyoisog V- 「《継続》 V-」、で表現された。モンゴル語での「～あぐねる」に対する対応表現は、xij demij V- 「無意味に やたらに V-」、zöndöö V-san č 「たくさん／自発的に V-した が」、V-x es-e-x deer udaan V-: V-E-PTCP.FUT do.not-PTCP.FUT on long V- 「V するか しないか に 長いこと 苦しむ」のようにいくつかの分析的な表現によって示された。ウズベク語での「～あぐねる」に対する対応表現は、V-(i)b qol-: V-CVB.IPFV remain 「～してしまう」や V-aver- 「継続／反復して～する」(4.1.2.節「～続ける」の項を参照)であった。

#### 4.2.2. 過剰行為

朝鮮語での「～過ぎる」に対する対応表現は「食べ過ぎた」「見過ぎた」のいずれも副詞を用いた nōmu manh'i V- 「あまりに たくさん V-」であったが、「食べ過ぎた」の方では漢語動詞である goasig#ha- 「《過食》する」も用いられた。モンゴル語での「～過ぎる」に対

<sup>10</sup> 査読者の1名の方と松岡葵氏から御指摘をいただいた。ここに記して感謝申し上げたい。

する対応表現は { araj ix / araj l xeter-üül-eed } V-: { almost much / almost EMPH exceed-CAUS-CVB.PFV } V-、もしくは { araj l ix / xeterxij ix / dendüü ix } V(-čix)-: {almost emph much / too much / very much } V(-COMP)- であった。ウズベク語での「～過ぎる」に対する対応表現は V-(i)b qo'y-: V-CVB.PFV put- であった。qo'y-「置く」には補助動詞として、‘indicates thorough, decisive action’ という用法が記述されている。

#### 4. 2. 3. 再試行

朝鮮語での「～直す」に対する対応表現は、もっぱら *dasi* V-「もう一度 V-」であり、「見直す」のみ漢語由来の *jaigomto#ha-*「《再検討》する」であった。モンゴル語での「～直す」に対する対応表現は、主に *daxin* V-「もう一度 V-」であるが、「見直す」は *daxin njagtal-ž* V-: *again investigate-CVB.IPFV* V-「もう一度 綿密に調べて V- (見る)」と表現され、「言い直す」は *zas-č* V-「直して V-」であった。ウズベク語での「～直す」に対する対応表現は、もっぱら *qayta* V-「もう一度 V-」であったが、「考え直す」と「見直す」ではさらに *chiq-*「出る」を補助動詞に用いて *qayta* V-(i)b *chiq-* のように表現された。V+ (i)b *chiq-* は ‘action done from beginning to end or all through a period of time’ を示すとされている。

#### 4. 2. 4. 習慣

朝鮮語での「～つける」に対する対応表現は、byor=ro 'an mög-'o bo-aso: another=INS NEG eat-CVB.ANT 「別に (否) 食べて 見て」であった。モンゴル語での「～つける」に対する対応表現は、*id-e-ž sur-aa=güj*: *eat-E-CVB.IPFV get.accustomed.to-PTCP.PRS=NEG* 「慣れる、経験する」もしくは *neg ix id-eed baj-dag=güj*: *one much eat-CVB.PFV be-PTCP.HBT=NEG / neg ix id-deg=güj one much eat-PTCP.HBT=NEG* 「そこまで食べない、そんなに食べない」であった。ウズベク語での「～つける」に対する対応表現は、*ye-b bil-a ol-ma-*: *eat-CVB.PFV know-CVB.IPFV take-NEG* であった。

朝鮮語での「～慣れる」に対する対応表現は、もっぱら *V-nun doi 'igsug#haiji-* V-ADN.PRS *situation get.accustomed.to-*「～する ことに 慣れている」である。ただし「使い慣れた」では *son='oi 'ig-* *hand=DAT get.accustomed.to-*「手に 慣れている」が用いられ、「見慣れた」では単に *'igsug#ha-*「慣れている」のみが用いられた。モンゴル語での「～慣れる」に対する対応表現は、「通い慣れた」では *öör-öö V-ž sur-/dad- oneself-REFL V-CVB.IPFV get.accustomed.to-* であった。*öör-öö* があると、「自分で行くのに慣れた」という感じの表現になるという。「住み慣れた」では *tövxnö-ž amž-*: *live.comfortable-CVB.IPFV afford-*「住み心地を良くして ～する暇がある／間に合う」という表現が用いられた。*tövxnö-öd av-*: *live.comfortable-CVB.PFV take-* も用いられた。補助動詞としての *av-*「取る」は「分離の副動詞形に後続し、その本動詞の意味を瞬間的に完成せしめる補助動詞として用いられる」(小沢 (1983: 4)) とされている。「使い慣れた」の対応表現には *V-ž das-č baj-*「V するのに 慣れている」もしくは *araj gež V-ž sur-*「やっと V して 慣れる」のように、前置の補助動詞も後置の補助動詞も現れた。「見慣れた」は単に *das-*「慣れる」もしくは *N-ijg xana-tl-aa V-*: *N-ACC tire-CVB.LIMIT-REFL V-*「～を 飽きるまで 見る」のように表現された。ウズベク語での「～慣れる」に対する対応表現は、もっぱら *V-sh-ga odatlan-*: *V-NMLZ-DAT get.accustomed.to-* によって表現された。ただし

「住み慣れる」は *yasha-sh-ga odatlan-ib qo'y-* とさらに *qo'y-*「置く」を補助動詞として加えて表現された。「見慣れる」は単純動詞 *tani-*: ‘to know, to be acquainted with’ もしくは *qol-*「残る」を補助動詞に用いて *tani-b qol-* と表現された。

朝鮮語での「～飽きる」に対する対応表現は、「聞き飽きた」が *jigyɔb-*「うんざりしている、飽き飽きしている」もしくは *jirri-*「飽き飽きする、嫌になる」で単純動詞／単純形容詞による表現である。ここでは形容詞が用いられることに注意したい。「食べ飽きた」も *murri-*「(食べ物や物事に) 飽きる」、「読み飽きた」も *jiru#ha-*「退屈だ、飽き飽きしている」と単純動詞である。ただし「遊び飽きた」では *sirhjuŋ#na-*「嫌気がさす、嫌になる、飽き飽きする、飽きる」であり、*na-*「出る」を含んでいる。

モンゴル語での「～飽きる」に対する対応表現は、「聞き飽きた」「食べ飽きた」では { *xana-tl-aa / ujda-tl-aa* } *V-*: { *tire-CVB.TERM-REFL / tire-CVB.TERM-REFL* } *V-*「飽きるまで ～する」のように先行する補助動詞的表現によるか、もしくは派生形容詞 *xangalt-taj V-*: *satisfaction-PROP V-*「満足-のゆく」によって表現された。「遊び飽きた」「読み飽きた」では *ujd(-čix)-: tire-COMP-*「飽きて しまう」を単に用いることが観察されたが、一方で「読み飽きた」では *V-AAAd xana-čix-: V-CVB.PFV tire-COMP-*のように後続する補助動詞も用いられた。ウズベク語での「～飽きる」に対する対応表現は、*V-(i)b charcha-* と補助動詞 *charcha-*: ‘to become tired’ による表現となっている。

#### 4.2.5. 可能

朝鮮語での「～得る」に対する対応表現は、いずれも可能表現である *-'ur su 'iss-*「～する方法がある」であった。モンゴル語での「～得る」に対する対応表現は、「なし得る」は *xij-ž čad-*「し 得る」であったが、「あり得る」は *zūjl baj-*「事態／状況／場合 ある」のように表現された。ウズベク語での「～得る」に対する対応表現は、「あり得る」は *bo'l-ish-i mumkin: happen-NMLZ-3POSS possible* のように、「なし得る」は *qil-a ol-: do-CVB.IPFV take-* のように表現された。

#### 4.3. ヴォイス（相互行為）

ここでは複合動詞〔相互行為：～合う〕についてみる。

朝鮮語での「～合う」に対する対応表現は、もっぱら *soro V-*「互いに *V-*」であった。「絡まり合う」のみ *'orghy-o 'iss-*「互いに絡み合っている」であった。一方、モンゴル語での「～合う」に対する対応表現では、「奪い合う」でも「絡まり合う」でも *V-ld- V-RECIP-* が用いられた。「支え合う」「知らせ合う」「投げ合う」では *bije bije-n-ee ürgel-ž demž-deg baj-body body-E-REFL always support-PTCP.HBT be-, bije bije-d-ee med-e-gd- body body-DAT-REFL know-E-PASS-, bije bije rüü-g-ee šid- body body DIR-E-REFL throw-* のように再帰代名詞として機能する *bije*「体、自分」を用いた表現が用いられた。ウズベク語での「～合う」に対する対応表現では、相互を示す要素は現れず、どれも単純な動詞形であった。例えば「奪い合う」は *kurash-: struggle.for.s.t.*、「絡まり合う」は *bog'la-n-: be.connected-PASS-* のようである。

## 5. 日本語の統語的複合動詞の対応表現 —その統合度と位置—

以下の表 2 に本稿の対象 3 言語における日本語の統語的複合動詞の対応表現を整理する。ただし、「そうした」による代用テストでは統語的複合動詞としての性格を全く示さない「～果てる」「～あぐねる」「～得る」の文語的な 3 語については下記の考察から外すことにした。

使用した略号はそれぞれ次のような構造を示すものとする。なお「主動詞」とは補助動詞構造などにおいて補助動詞などに伴われている方の動詞のことを指す。「本動詞」とは日本語の統語的複合動詞の対応表現として機能しているものの、(意味の) 文法化が起きておらず、本来の語彙的意味のままで働いているものを指す。

—：対応表現が存在せず、単純動詞で示されるもの、頭 V：接頭辞-動詞、V 尾：動詞-接尾辞、補 V：補助動詞-副動詞語尾 主動詞、V 補：主動詞-副動詞語尾 補助動詞、VN 本：主動詞-名詞化(-格) 本動詞、副 V：副詞 動詞、V 分：主動詞に後続する数語からなる分析的な表現、V 接：動詞の副動詞形／接続表現が対応表現の機能を実現しているもの、V：漢語動詞など、語彙的意味に対応表現のニュアンスが含まれるような動詞を用いたもの<sup>11</sup>

なお [ ] 内に示したものは、よりマイナーなパターンであることを示す。

表 2：本稿の対象 3 言語における日本語の統語的複合動詞の対応表現

|         | 朝鮮語            | モンゴル語         | ウズベク語     |
|---------|----------------|---------------|-----------|
| ～かけて    | V 接            | V 尾           | V 補       |
| ～かかっている | —              | —             | —         |
| ～出した    | VN 本           | —             | V 補       |
| ～始めた    | VN 本           | V 補           | V 補       |
| ～まくった   | 副 V／[V 複]      | 副 V           | 副 V／[V 補] |
| ～続けた    | 副 V            | V 補           | V 尾       |
| ～終えた    | 副 V／[V 複]      | V 補           | V 補       |
| ～終わった   | 副 V／[V 複]      | V 補           | V 補       |
| ～尽くした   | 副 V／[V 複]      | 副 V           | —         |
| ～切った    | 副 V／[V 複]／[V]  | V 補／[補 V]／[V] | V 補       |
| ～通した    | 副 V／[V 複]／[V]  | —／[V (分)]     | 副 V       |
| ～抜いた    | —／[V]          | —／副 V         | V 補       |
| ～損なった   | 頭 V／V 分        | V 補／[V]       | V 補／[V]   |
| ～損じた    | 頭 V            | V 補           | V 補       |
| ～そびれた   | 頭 V／V 分／[VN 本] | V 補／[VN 本]    | V 補       |
| ～損ねた    | V 分            | V 補／[V]       | V 補／[V]   |
| ～かねた    | VN 本／V 分／[—]   | V 補／[—]       | V 補／[—]   |

<sup>11</sup> なお表中で朝鮮語の「～つけていない」の対応表現である「副 頭 V 補」のみ、組み合わせによる表現になっていることに注意されたい。

|         |                     |              |          |
|---------|---------------------|--------------|----------|
| ～遅れた    | V/V 分/補 V           | [V] /V 補/副 V | V 補/ [V] |
| ～忘れた    | VN 本                | VN 本         | VN 本     |
| ～残した    | V 補/ [VN 本] / [頭 V] | V/ [VN 本]    | V 補/ [V] |
| ～誤った    | 副 V                 | 副 V          | 副 V      |
| ～過ぎた    | 副 V/ [V]            | 副 V/ [補 V]   | V 補      |
| ～直した    | 副 V                 | 副 V/ [補 V]   | 副 V (補)  |
| ～つけていない | 副 頭 V 補             | V 補          | V 補      |
| ～慣れた    | VN 本                | V 補          | VN 本     |
| ～飽きた    | —                   | 補 V/V 補      | V 補      |
| ～合った    | 副 V                 | V 尾/副 V      | —        |

言語間における違いは下記で検討するが、日本語の複合動詞後項の意味によっても対応表現の違いに傾向のあることがわかる。そのためここで一言触れておく。誤り・過剰行為・再試行に関しては、朝鮮語のみならずモンゴル語・ウズベク語においても動詞に先行する副詞によって示されやすいようだ。「～忘れる」はどの言語でも分析的な表現で表現されている。これは対象の行為と「忘れる」という行為が別個の行為として捉えられた上で結び付けられているためであろう。「～まくる」ももっぱら副詞的に表現される。これは対象となる行為が異なる場所で異なる時間に何度も行われると捉えられるためではないだろうか。

以上のデータに基づき、次の 2 点について分析する：①言語間の統合度の違い、②言語間における対応表現の前置／後置の違い。

### 5.1. 言語間の統合度の違い

何によってある言語、もしくはある言語形式における統合度を判定するかは難しい問題ではあるが、本稿で扱ってきた諸形式に関して、独立性の低いものから順に並べるならば下記のような序列になるだろう。

接辞＞複合動詞後項＞補助動詞＞副詞を含む分析的表現

そこで [接辞によるもの] (頭 V・V 尾) を 4 点、[複合動詞後項] (V 複) を 3 点、[補助動詞によるもの] (補 V/V 補) を 2 点、[副詞を含む分析的表現] (VN 本/副 V/V 分) を 1 点として計算し、これによって定量的に言語間の統合度の違いの分析を試みることにする (( ) 内は表 2 の略号を示す、なお V および — はカウントしない、表のセル 1 つにつき先頭にある略号 1 つのみをカウントの対象とする、したがって / より後の形式はカウントしない)。なお日本語の諸形式は全て V 複としてカウントする。点数の高かった順に上から示すと、その結果は次のようになった。

表 3：言語間の統合度の違い

|       |    |
|-------|----|
| 日本語   | 81 |
| ウズベク語 | 44 |
| モンゴル語 | 40 |
| 朝鮮語   | 36 |

この結果は塚本 (1997) が「トルコ語やモンゴル語は日本語と朝鮮語の間に位置する」と述べた予備的調査結果におおよそ沿ったものとなっている。しかし朝鮮語とウズベク語・モンゴル語との差は小さい。実際には朝鮮語のアスペクトにおいても、副詞的表現ばかりでなく、生産性が高く統語的な複合動詞後項 (#dur-, #ci'u-, #nai-, #bori-) がいくつも観察された。

定量的に見た共時的な結果は上記のようであるが、通時的に見れば日本語の複合動詞の前項は少し文語的ではあるが現在でも「たけしは歌を歌い、踊った」のように使うことのできる未完了副動詞形 (CVB.IPFV, 国文法における「連用形」) を起源としている。共時論的な状況を通時的起源によって説明することは慎まなければならないが、補助動詞と複合動詞後項の違いは、言語の本質的で典型的な違いに起因するというよりは歴史的な段階を反映しているものと考えたい。例えばモンゴル語の -čix やウズベク語の -aver- は元は独立した動詞を起源としているが現在では接辞化したものである。本稿で補助動詞としたものの中にもアクセントを含む発音の面で主動詞と縮約を起こすものが存在する可能性が考えられる。たとえ縮約がなくとも、主動詞と本動詞の間に他の要素が出現しにくいようであれば、2語であってもその結びつきは強いということになる。今後、補助動詞の形態的な振る舞いや縮約について個別に調査・研究を進めていくことが重要であろう。

塚本 (1997) では複統合と抱合を混同していた。複統合とは「統合度の度合いが高い」ということであり、抱合とは「目的語と動詞語幹の複合」を意味し、両者が峻別されねばならないことは言うまでもない。

まず語幹の複合を許さず接辞のみによる動詞複合体を考えると (つまり「統合度」に関する対照を行うと)、朝鮮語でも mǎg-'i-sy-ǝss-goiss-jiyo [食べる-使役-尊敬-過去-将然判断-終止確認の疑問法語尾] (野間 (1998: 179)) のように、日本語の「食べ-させ-られ-な-かった」と同じような統合度の動詞複合体の形成が可能である。この点ではモンゴル語も (xar-uul-čix-san: see-CAUS-COMP-PTCP.PFV 「見-せ-てしまっ-た」 (風間・山田 (2021: 265))), ウズベク語と同じチュルク諸語のトルコ語も (anlař-tır-ıl-ma-yacak=tı-nız: understand-RECIP-CAUS-PASS-NEG-FUT=PST-2PL 「君たちは合意させられないはずだった」 (林 (1989: 1391))) のような動詞複合体を形成することができる。したがって統合度の点ではこれらの言語間であまり大きな違いは見られない。一方、宮岡 (1992: 26-37) の「4.6 接辞法」を見ると、まさに複統合と呼ぶにふさわしい動詞複合体を示すエスキモー語や、語彙的接辞を持つモース諸語の例を見ることができる。エスキモー語やモース諸語の動詞複合体における統合度と比べれば、本稿の対象諸言語の統合度ははるかに低いと見るべきものである。

Bybee (1985) が示したように動詞複合体は一般に [動詞語幹-結合価-ヴォイス-アスペクト-テンス-モダリティ-人称] のような構成をとるが、本稿の対象諸言語は概ねこのような構成に従っている。(人称はさておき) ただし朝鮮語においては、アスペクトをはじめとする

いくつかの文法カテゴリーが動詞複合体にあまり組み込まれていないことが明らかになった。一方、アルタイ諸言語の中でもツングース諸語のエウエン語には 10 を超えるアスペクトの接辞があり（継続体・一回体・多回体・始動体・習慣体・反復体・長時間継続体・希少体・速攻体・瞬間体）、その内容も本稿で見た日本語のアスペクトの複合動詞の意味を広くカバーし、さらにそれ以上に及んでいる（風間 (2003: 306-307)）。なお、管見の限りではアルタイ諸言語と朝鮮語と日本語の中にあつては、このようにツングース諸語が一番統合度の高いグループであると思われる（この点については風間 (2010) も参照されたい）。

このようにアスペクトに関しては、同じアルタイ型の言語にあつても、接辞で示されたり、補助動詞で示されたり、複合動詞後項で示されたり、副詞で示されたり、と言語によってさまざまである。風間 (2022: 371) では、このような標示の多様性はアスペクトの持つ中間的な性格によるものであるとした。本稿の研究結果もこれを支持するものと考ええる。

そうなると残る問題は「抱合」を含む「語幹同士の複合が可能かどうか」という点である。アルタイ諸言語が複合を好まないのに対し、日本語と朝鮮語では広く複合が可能である。その点ではアルタイ諸言語よりも日本語と朝鮮語の方が統合度が高い。しかし両言語ともアイヌ語やチュクチ語が有するような取り外し自由な抱合を持たない。アイヌ語およびチュクチ語には主語のみならず目的語による人称変化があるが、日本語と朝鮮語には対象活用どころか主語による人称活用もない。したがって複合のある言語を視野に入れても日本語と朝鮮語の統合度は決して高いとは言えないだろう。アルタイ諸言語が複合を嫌い、日本語・朝鮮語には複合があるという両者の違いについては、単なる歴史的な発展段階における違いと考えられることはすでにこの節のはじめで述べた通りである。

## 5.2. 言語間における対応表現の前置／後置の違い

上記のように考察を進めて来ると、日本語に本稿の対象 3 言語を合わせた 4 言語の間の統合度の違いはあまり大きなものとは思われない。それよりも大きな違いと感じられるのは対応表現が動詞の前に現れるか、後ろに現れるかという違いである。一見して朝鮮語は圧倒的に前置要素が多いようだ。そこでここでもまず定量的な分析を行う。やはり各セルの先頭の構造のみに限定し、これを前置（頭 V・補 V・副 V）と後置（V 尾・V 補・VN 本・V 分）に分けてその数をカウントする。下記の表においてスラッシュの前が前置形式の数、後ろが後置形式の数であり、％は前置の数を全体で割ったもので、いわば「前置率」である。

表 4：本稿の対象言語における対応表現の前置／後置の違い

|       |             |
|-------|-------------|
| 朝鮮語   | 15/8(65.2%) |
| モンゴル語 | 6/15(28.6%) |
| ウズベク語 | 4/20(16.7%) |

4 節で観察したように、モンゴル語とウズベク語は多様で豊富な補助動詞を発達させており、これらをふんだんに使用していた。これに対し朝鮮語では、アスペクトのうち継続には *gyoisog* 「《継続》（して）」、完了には *da* 「全て」、誤りには *jarmos* 「間違つて」、過剰行為には *nomu manh'i* 「あまりに たくさん」、再試行には *dasi* 「もう一度」、相互態には *soro* 「互

いに」と動詞に先行する副詞表現を多用し、否定や不可能にも 'an- や mos- という接頭辞的な形式を備えているため、前置率がかなり高くなっている。

風間 (2022: 49) では Lehman (1973, 1978) の仮説を紹介し、OV 言語では動詞の文法カテゴリーを接尾辞で示す方が整合的なタイプである、ということを示した。すなわち「名詞修飾要素-O V-動詞文法カテゴリー」のような順序であれば、O と V からなる統語構造を中断することなく文を形成できるため、こうした構造の方が整合的である、とする仮説である。

この仮説から考えると、朝鮮語は OV 言語であるのに動詞の文法カテゴリーの一部は動詞に前置させるという点で「整合的な OV 言語ではない」ということになる。現時点ではその原因は不明である。歴史的にかつてはもう少し異なるタイプの言語であり、その特徴がなお残存しているのかもしれない。その原因の究明も今後の課題である。

## 6. まとめ

本稿では朝鮮語とモンゴル語、ウズベク語を対象として、母語話者からの聞き取り調査により、これらの言語における日本語の複合動詞後項に機能的に対応する表現形式を探った。その結果、その対応表現として、モンゴル語とウズベク語が多様な補助動詞を使用しているのに対し、朝鮮語では副詞をはじめとする動詞に先行する表現を多用していることが明らかになった。この点については一部先行研究でもすでに指摘されてきたことであるが、本稿ではアルタイ諸言語との対照を通じ、まずは実証的かつ定量的な分析を行った点に意味があると考えられる。日本語・アルタイ諸言語に対して朝鮮語が示す特徴について、先行研究はこれを統合度の違いとみていたが、本稿はむしろ文法カテゴリーの諸要素を動詞に後置させるか前置させるかの違いであると分析した。

### [謝辞]

時間を割いて面倒な例文の翻訳をしてくださったコンサルタントの方々に深くお礼申し上げます。貴重なコメント・御指摘を下された2名の査読者の先生方にも深くお礼申し上げます。ただし本稿におけるいっさいの誤謬は筆者の責に帰すものである。

### 略号一覧 (Leipzig Glossing Rules にないもののみ)

=: 付属語境界 / #: 複合語境界 / ADN: adnominal / ANT: anterior / COMP: complete / E: epenthetic / EMPH: emphasis / FIN: final / HBT: habitual / IMM: immediative / PROP: proprietive / SIM: simultaneous / TERM: terminative

### 参考文献

- Bybee, Joan L. (1985) *Morphology, a study of the relation between meaning and form*. Amsterdam / Philadelphia: John Benjamins.
- 林徹 (1989) 「トルコ語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編) 『言語学大辞典 第2巻』1383-1395. 東京: 三省堂
- 姫野昌子 (2018) 『新版 複合動詞の構造と意味用法』(初版 (1999) ひつじ書房) 東京: 研究社

- 一ノ瀬陽子・木戸康人・團迫雅彦 (2015) 「韓国語を母語とする日本語学習者における統語的複合動詞の習得」『福岡大学人文論叢』47(2): 453-475.
- Ibrahim, A. (1995) *Meaning and usage of compound verbs in modern Uighur and Uzbek*. PhD dissertation of University of Washington.
- Janhunen, Juha (2012) *Mongolian*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』東京：ひつじ書房
- 柏崎雅代・田山のり子 (編集代表) (2023) 『研究社 日本語複合動詞活用辞典』姫野昌子監修. 東京：研究社
- 風間伸次郎 (2003) 「アルタイ諸言語の3グループ (チュルク、モンゴル、ツングース)、及び朝鮮語、日本語の文法は本当に似ているのか 一対照文法の試み」アレキサンダー・ボビン・長田俊樹 (編) 『日本語系統論の現在』249-340. 国際日本文化研究センター
- 風間伸次郎 (2010) 「ツングース諸語における統合度について」呉人恵 (編) 『環北太平洋の言語』71-83. 富山大学人文学部
- 風間伸次郎 (2022) 『日本語の類型』東京：三省堂
- 風間伸次郎・山田玲央 (2021) 『28 言語で読む「星の王子さま」 世界の言語を学ぶための言語学入門』東京：東京外国語大学出版社
- 河野六郎 (1955) 「朝鮮語」市河三喜・高津春繁 (編) 『世界言語概説 下巻』東京：研究社
- 栗林裕 (2014) 「V+V 型複合動詞と語形成 ―トルコ語から見た日本語―」影山太郎 (編) 『複合動詞研究の最先端 ―謎の解明に向けて―』273-299. 東京：ひつじ書房
- Kuribayashi, Y. (2021) Turkish and Uyghur verb-verb complexes in contrast. T. Kageyama, P. E. Hook, and P. Pardeshi (eds.), *Verb-Verb Complexes in Asian Languages*. 455-470. Oxford: Oxford University Press.
- Lehman, Winfred P. (1973) A structural principle of language and its implications. *Language* 49: 47-66.
- Lehman, Winfred P. (1978) *Syntactic typology: Studies in the phenomenology of language*. Austin: University of Texas Press.
- Ohsaki, N. and F. Ebata (2021) Verb-verb complexes in Central and Eastern Turkic languages. Hook, and P. Pardeshi (eds.), *Verb-Verb Complexes in Asian Languages*. 430-454. Oxford: Oxford University Press.
- 宮岡伯人 (1992) 「環北太平洋の言語」宮岡伯人 (編) 『北の言語：類型と歴史』3-65. 東京：三省堂
- 野間秀樹 (1998) 「朝鮮語」東京外国語大学語学研究所 (編) 『世界の言語ガイドブック 2 アジア・アフリカ地域』168-184. 東京：三省堂
- 小沢重男 (1983) 『現代モンゴル語辞典』東京：大学書林
- 島田志津夫 (2019) 『大学のウズベク語』東京：東京外国語大学出版会
- Shluinsky, A. (2021) Verb-verb complexes in Turkic languages: Interaction of lexical and delexicalized verbs. Hook, & P. Pardeshi (eds.), *Verb-Verb Complexes in Asian Languages*. 397-429. Oxford: Oxford University Press.
- 斯欽格日樂 (2020) 『モンゴル語の方向性を持つ補助動詞について ―内モンゴルの文語資

料を中心に一』東京外国語大学提出の博士論文  
 塚本秀樹 (1995) 「膠着言語と複合構造」仁田義雄 (編) 『複文の研究 (上)』東京：くろしお出版  
 塚本秀樹 (1997) 「語彙的な語形成と統語的な語形成 —日本語と朝鮮語の対照研究—」『日本語と外国語の対照研究 IV 日本語と朝鮮語 下巻 研究論文編』東京：くろしお出版  
 塚本秀樹 (2012) 『形態論と統語論の相互作用 —日本語と朝鮮語の対照言語学的研究』東京：ひつじ書房  
 和田学 (2011) 「二つの語彙的緊密性 —韓国語 (と日本語) の複合動詞—」『山口大学文学会誌』 61: 83-104.  
 油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎 (編) 『朝鮮語辞典』東京：小学館・韓国金星出版社 (共編)

インディアナ大学チュルク・イラン語彙方言学センターのウズベク語-英語辞典  
<https://ctild.indiana.edu/Main/Uzbek-EnglishDictionary>. by Center for Turkic and Iranian Lexicography and Dialectology, Indiana University (最終閲覧日：2024/12/24)

付録：本稿対象言語の日本語複合語に対する対応表現一覧

|       | 朝鮮語                  | モンゴル語                                             | ウズベク語               |
|-------|----------------------|---------------------------------------------------|---------------------|
| 訴えかける | hosoha-              | gomdol garga-                                     | shikoyat qil-       |
| 追いかける | duijjoc- / jjoc'aga- | xöö-                                              | quvla-              |
| 囁きかける | sogsag'i-            | šivne-                                            | shivirlab qo'y-     |
| 立てかける | noh-                 | tav'-                                             | qo'yib qo'y-        |
| 問いかける | mur-                 | asuu-                                             | so'rab ko'r-        |
| 食べかけて | mɔg-daga             | idesxijgeed / idesxijsnee /<br>amsaad / amsasgeed | yeb ko'r-           |
| 襲いかかる | dɔpci-               | dajr-                                             | hujum qil-          |
| 崩れかかる | munɔji-              | cuursan baj-                                      | qulab tush-         |
| 倒れかかる | ssuwrɔji-            | una-                                              | yiqilib tush-       |
| 通りかかる | jinaga-              | öngör-                                            | o't-                |
| 殴りかかる | dɔmbyɔdur-           | dajr-                                             | urib ket-           |
| 暴れ出す  | narddui-             | süjd bol-                                         | janjal qilib ket-   |
| 言い出す  | marha-               | duugar-                                           | gapira boshla-      |
| 流れ出す  | hurrɔna'o-           | urssan gar-                                       | oqib chiqib ket-    |
| 走り出す  | darrigi sijagha-     | güjž exel-                                        | yugurib ket-        |
| 降り出す  | nairigi sijagha-     | orž exel-                                         | yog'a boshla-       |
| 行き始める | gagi sijagha-        | javž exel-                                        | yura boshla-        |
| 帰り始める | dor'agagi sijagha-   | garč exel-                                        | qaytib kela boshla- |
| 食べ始める | mɔgi sijagha-        | idež exel-                                        | yeya boshla-        |

|        |                                               |                             |                                |
|--------|-----------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------|
| 飲み始める  | masigi sijagha-                               | uuž exel-                   | icha boshla-                   |
| 見始める   | bogi sijagha-                                 | üzež exel-                  | ko'ra boshla-                  |
| 遊びまくる  | gyoisog nor-                                  | {maš ix / xanatlaa } toglo- | o'ynavor-                      |
| 踊りまくる  | cuo dai-                                      | büžigle-                    | raqsga tush-                   |
| 買いまくる  | manh'i sa-                                    | maš olon N xudaldaž av-     | (ko'p) sotib ol-               |
| 喋りまくる  | ssod'a nai-                                   | xel-                        | gapirib tashla-                |
| 怒鳴りまくる | gohamjiruu- /gohamci-<br>/sorirur jirryo dai- | xašgir-                     | baqirib tashla-                |
| 行き続ける  | gyoisog ga-                                   | jav-                        | yuraver-                       |
| 食べ続ける  | gyoisog mäg-                                  | idseer l baj-               | yeyaver-                       |
| 飲み続ける  | gyoisog masi-                                 | uusaar l baj-               | ichaver-                       |
| 見続ける   | gyosog bo-                                    | üzseer baj-                 | ko'raver-                      |
| 食べ終わる  | da mäg- / mäg'ö ci'u-                         | xoollož duus-/duusg-        | yeyishni tugat-                |
| 飲み終わる  | da masi- / masi'ö ci'u-                       | uuž duusga-                 | ichishni tugat-                |
| 食べ終わる  | da mäg- / mäg'ö ci'u-                         | idež duusga-                | yeb bo'l-                      |
| 飲み終わる  | da masi- / masi'ö ci'u-                       | uuž duusga-                 | ichib bo'l-                    |
| 見終わる   | da bo-                                        | üzež duusga-                | ko'rib bo'l-                   |
| 言い尽くす  | da marha-                                     | büxnee xel-                 | (hammasini) ayt-               |
| 売り尽くす  | da par- / par'a ci'u-                         | büxnee zar-                 | sot-                           |
| 語り尽くす  | da marha-                                     | büx zövlön züdgüüree jar'-  | gapir-                         |
| 調べ尽くす  | da 'ar'anai-                                  | büx züjlsijg sudal-         | tekshir-                       |
| 食べ尽くす  | da mäg-                                       | büx amtang idež duusga-     | ye-                            |
| 言い切る   | dan'onha-                                     | batlan xel-                 | (qattiq) ayt-                  |
| 数え切る   | da / ggutggaji soi-                           | toolž duusga-               | sanab bo'l-; hisoblab<br>bo'l- |
| 堪え切る   | cam'anai- / boti-                             | tesč gar-                   | dosh bera ol-                  |
| 使い切る   | ssobori-                                      | ür-                         | ishlatib bo'l-                 |
| 逃げ切る   | mönjo docagha-                                | zugtaž čad-                 | qochib bo'l-                   |
| 押し通す   | miröbut'i-                                    | xamgaal-                    | qattiq turib ol-               |
| 隠し通す   | ggut=ggaji sumgi-                             | čandlan xamgaal-            | sirni (oxirigacha) saqla-      |
| 黙り通す   | cimmug='uro 'irgwan#ha-                       | duugüj l baj-               | (oxirigacha) jim tur-          |
| 貫き通す   | goantonha- / gguoiddurh-                      | cool-                       | teshib o'tkaz-                 |
| 守り通す   | jikiönai-                                     | bijelüül-                   | (oxirigacha) va'dada<br>tur-   |
| 選び抜く   | bbob-                                         | songo-                      | tanlab ol-                     |
| 考え抜く   | saingagha-                                    | bod-                        | o'ylab top-                    |
| 鍛え抜く   | danryönha-                                    | sajžruul-                   | takomallashtir-                |
| 悩み抜く   | gominha-                                      | maš ix šanal-               | (oxirigacha o'ylan-)           |

|        |                                               |                            |                                                       |
|--------|-----------------------------------------------|----------------------------|-------------------------------------------------------|
| 見抜く    | araci- / nuncicai-                            | med-                       | bilib ol-                                             |
| あきれ果てる | giga maghi- / giga ca- /<br>jirryo bəri-      | gajxšir-                   | hayratga tush-                                        |
| 涸れ果てる  | marra bəri-                                   | garaxaa boli-              | qurib ket-                                            |
| 変わり果てる | baggui-                                       | öörçlögd-                  | o'zgarib ket-                                         |
| 困り果てる  | gonranhaiji-                                  | oloxoo boli-               | xijolat bo'l-; nima<br>qilishni bilma-                |
| 疲れ果てる  | pigonhaiji-                                   | jadar-                     | charchab ket-                                         |
| 乗り損なう  | mos ta- / nohci-                              | xocor-                     | kira olma-; o'tkazib<br>yubor                         |
| 書き損なう  | jar ssur su obs- / jar mos<br>ssui-           | bičiž čadsangüj            | yoza olma-                                            |
| 聞き損なう  | dudji mosha-                                  | sonsož amžsangüj           | eshita olma-                                          |
| 食べ損なう  | mos mæg-                                      | idež čadaagüj              | yeya olma-                                            |
| もらい損なう | badji mosha- / mos bad-                       | avč čadaagüj               | ola olma-                                             |
| 書き損じる  | ssuji mosha-                                  | biči-ž amžsangüj           | yoza olma-                                            |
| し損じる   | masha-                                        | xolbogdož čadsangüj        | qila olma-                                            |
| 言いそびれる | mar'ur mosha-                                 | xelexee martčix-           | ayta olma-                                            |
| 寝そびれる  | jam'ur jaji mosha- /<br>jam'ur sər-ci-        | untsangüj                  | uxla olma-                                            |
| 話しそびれる | marhaji mosha-                                | tajlbarlaž čadaxgüj öngör- | gapira olma-                                          |
| 乗り損ねる  | taji mosha-                                   | xocor-                     | o'tkazib yubor-                                       |
| 書き損ねる  | ssuji mosha-                                  | bičixee martčix-           | yoza olma-                                            |
| 聞き損ねる  | dudji mosha-                                  | asuuž amžsangüj            | eshita olma-                                          |
| 食べ損ねる  | mægji mosha-                                  | idež amžsangüj             | yeya olma-                                            |
| 扱いかねる  | daruji 'oryob-                                | olž čadaagüj               | dosh bera olma-                                       |
| 決めかねる  | gyərjərhaji 'anh-                             | šijdež čadaagüj            | tanlab olma-                                          |
| 断りかねる  | gəjərhaji 'anh-                               | tatgalzaž čadaagüj         | rad eta olma-                                         |
| 堪りかねる  | cam'ur su 'iss-                               | teselgüj oril-             | chida olma-                                           |
| 待ちかねる  | gidariji 'anh-                                | tesen jadan xüleež baj-    | kutib o'tir-                                          |
| 出し遅れる  | nuijgəi nai-                                  | xuraalgaž čadaagüj         | topshirishga ulgura<br>olma-; topshirishga<br>kechik- |
| 立ち遅れる  | nuij-                                         | xojšluul-                  | kechik-                                               |
| 出遅れる   | nuijgəi culbarha- /<br>curbalhanuun gəi nuij- | xocorč gar-                | (chiqishga) kechik-                                   |
| 逃げ遅れる  | domaŋciji mosha-                              | amia ald-                  | qochishqa ulgura olma-                                |
| 乗り遅れる  | taji mosha-                                   | xocr-                      | o'tkazib yubor-                                       |

|        |                              |                                                    |                                |
|--------|------------------------------|----------------------------------------------------|--------------------------------|
| 言い忘れる  | mar'ur 'ij-                  | talaxaxaa martsan baj-                             | aytishni unut-                 |
| 置き忘れる  | dugo 'ij-                    | orxicixož / martaž                                 | qo'yishni unut-                |
| 買い忘れる  | sanuun gosuur 'ij-           | avaxaa martčix-                                    | sotib olishni unut-            |
| 消し忘れる  | ji'unuun gos'ur 'ij-         | arilgaxaa martčixaž                                | o'chirishni unut-              |
| しまい忘れる | böri-                        | xijxee martxaž                                     | qo'yishni unut-                |
| 思い残す   | huhoiha-                     | xarams-                                            | afsuslan-                      |
| 剃り残す   | joidairo mos ggagg-          | xusaagüj orxi-                                     | qirqmay qoldir-                |
| 食べ残す   | moggo namgi-                 | baralgüj üldee-                                    | ovqatni qoldir-; yemay qoldir- |
| 使い残す   | sa'yonghaji 'anhgo namgi-    | öld-                                               | ishlatmay qoldir               |
| 塗り残す   | nam-                         | budaagüj orxison baj-                              | bo'yamay qoldir-               |
| 言い誤る   | mar jarmosha-                | buruu jum xel-                                     | noto'g'ri gapir-               |
| 思い誤る   | jarmos saingagha-            | buruu songolt xij-                                 | noto'g'ri o'yla-               |
| 聞き誤る   | jarmos dud-                  | buruu sons-                                        | noto'g'ri eshit-               |
| 見誤る    | jarmos 'ar'abo-              | buruu xar-                                         | noto'g'ri ko'r-                |
| 考えあぐねる | saingag'i ddo'oruji 'anh-    | xij demij l sanaašir-                              | o'ylanib qol-                  |
| 思いあぐねる | saingaghadaga jici-          | xij demij l sanaašir-                              | o'ylanib qol-                  |
| 探しあぐねる | gyoisog caj-                 | zöndöo xajsan č                                    | qidiraver-                     |
| 攻めあぐねる | gongyoghadaga jici-          | dovtlox esex deer udaan šanal-                     | hujum qilaver-                 |
| 行き過ぎる  | jinaci-                      | öngörčix-                                          | o'tib ket-                     |
| 移り過ぎる  | byonhai ga-                  | soligdon öngör-                                    | o'tib ket-                     |
| 通り過ぎる  | jinaga-                      | javž öngör-                                        | o'tib ket-                     |
| 走り過ぎる  | darrjo jinaga-               | güjn öngör-                                        | yugurib o't-                   |
| 食べ過ぎる  | nomu manh'i mog- / goasigha- | araj ix idčix- / araj l xetrüüleed idčix-          | yeb qo'y-                      |
| 見過ぎる   | nomu manh'i bo-              | araj l ix üz- / xeterxij ix üz- / dendüü ix üzčix- | ko'rib qo'y-                   |
| 言い直す   | dasi marha-                  | zasč xel-                                          | qayta ayt-                     |
| 考え直す   | dasi saingagha-              | bodloo öörčil-                                     | qayta o'ylab chiq-             |
| 数え直す   | dasi soi-                    | daxin tool-                                        | qayta hisobla-                 |
| 作り直す   | dasi manduul-                | daxin xij-                                         | qayta tuz-                     |
| 見直す    | jaigomtoha-                  | daxin njagtalž üz-                                 | qayta ko'rib chiq-             |
| 押しつける  | dur'idai-                    | tulga-                                             | (qattiq) bos-                  |
| 決めつける  | danjonji-                    | üz-                                                | xulosa chiqar-                 |
| 飾りつける  | jaqsigha-                    | bajrleel-                                          | beza-                          |
| 照りつける  | nairijjoi-                   | šar-                                               | porla-                         |
| 睨みつける  | noryobo-                     | muuxaj xar-                                        | jaxl bilan qara-               |

|       |                          |                                                             |                                                      |
|-------|--------------------------|-------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 食べつけて | byorro 'an mäg'ə boaso   | idež suraagüj / neg ix ideed<br>bajdaggüj / neg ix iddeggüj | yeb bila olma-                                       |
| 行き倒れる | ssuuryoji-               | üx-                                                         | yiqilib tush-                                        |
| ぶっ倒れる | ssuuryoji-               | nurž una-                                                   | qulab tush-; yiqilib<br>tush-                        |
| 通い慣れる | daninun doi 'igsughaiji- | ööröö javž sur- / javž dad-                                 | qatnashga odatlan-                                   |
| 住み慣れる | sanun doi 'igsughaiji-   | tövxnöž amž- / tövxönööd<br>av-                             | yashashga odatlan- /<br>yashashga odatlanib<br>qo'y- |
| 使い慣れる | son'oi 'ig-              | xereglež dasč baj- / araj gež<br>xereglež sur-              | ishlatishga odatlan-                                 |
| 見慣れる  | 'igsughaiji-             | das- / xanatlaa xar-                                        | tani- / tanib qol-                                   |
| 遊び飽きる | sirhjuɣnai-              | ujd- / ujdčix-                                              | o'ynab charcha-                                      |
| 聞き飽きる | jigi- / jirri-           | xanatlaa sons- / xangalttaj<br>sons- / ujdlatlaa sons-      | eshitib charcha-                                     |
| 食べ飽きる | murri-                   | xanatlaa id- / xangalttaj id- /<br>ujdatlaa id-             | yeb charcha-                                         |
| 読み飽きる | jaruha-                  | ujdčix- / unšaad xanačix-                                   | o'qib charcha-                                       |
| 奪い合う  | soro bbai'as-            | bulaacald-                                                  | kurash-                                              |
| 絡まり合う | orghyo 'iss-             | oroosold-                                                   | bog'lan-                                             |
| 支え合う  | soro 'uijiha-            | bije bijenee ürgelž demždeg<br>baj-                         | qo'llab quvvatla-                                    |
| 知らせ合う | soro 'arri-              | bije bijedee medegd-                                        | bildir-                                              |
| 投げ合う  | soro danji-              | šid-                                                        | uloqtir-                                             |
| あり得る  | iss'ur su 'iss-          | zūjl baj-                                                   | bo'lishi mumkin                                      |
| なし得る  | har su 'iss-             | xijž čad-                                                   | qila ol-                                             |

On the Corresponding Expressions of Japanese Compound Verbs  
in Altai-type Languages

Shinjiro KAZAMA  
(Tokyo University of Foreign Studies)

This paper explores the expressive forms in Korean, Mongolian, and Uzbek languages that functionally correspond to the second element of Japanese compound verbs through elicitations with native speakers. The results revealed that Mongolian and Uzbek use a variety of auxiliary verbs in their corresponding expressions, whereas Korean makes extensive use of adverbs and other expressions preceding verbs. Although this point has already been pointed out partially in some previous studies, I believe that it is significant to conduct an empirical and quantitative analysis by comparing Korean with Altaic languages. The characteristics of Korean in contrast to Japanese and other Altaic languages were considered by previous studies to be differences in the degree of synthesis, but this paper analyzes them as differences in whether the elements of grammatical categories are prepositioned or postpositioned on the verb.

(かざま・しんじろう kazamas@tufs.ac.jp)